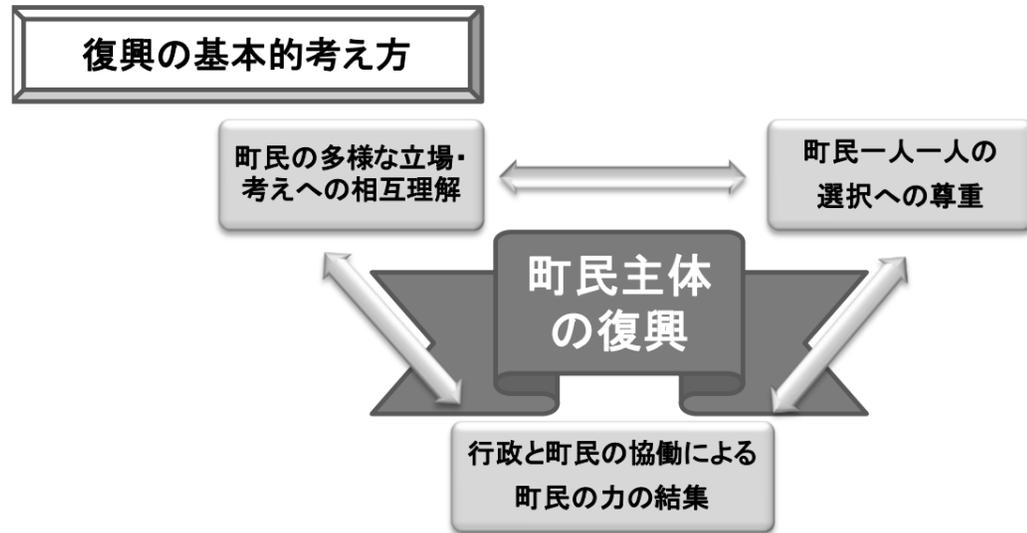


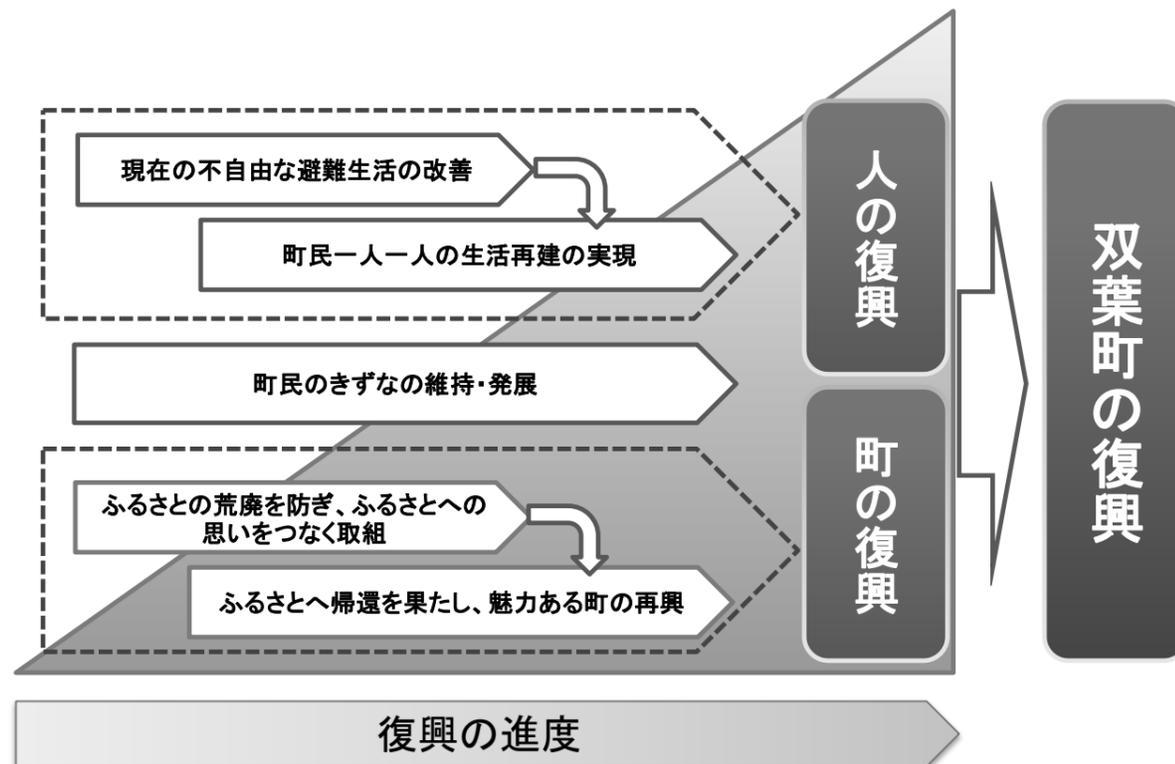
双葉町復興まちづくり計画の基本方針について

○これまでの議論を踏まえて、双葉町復興まちづくりの基本方針の文章案を以下のように整理してはどうか。

双葉町復興まちづくりの基本方針の概念



双葉町の復興の進め方



復興まちづくり計画を考えるに当たって

- 双葉町は、巨大地震・津波に加えて原子力発電所の事故に襲われ、放射能という目に見えない危険の恐怖に脅かされてきました。放射能に対する様々な考え方がある中で、町民のそれぞれが難しい判断を強いられて今日の避難生活を送っています。単なる地震・津波被害からの復興ではなく、原子力災害からの復興という、我が国がこれまで経験したことがない困難な課題に対する解決の方向を考えることが、この計画づくりの最も大きなテーマとなります。
- 福島第一原子力発電所の廃炉措置、除染の進捗、中間貯蔵施設の問題など、双葉町の復興を巡る状況は刻々と変化しています。また、町民の意識も、こうした諸情勢の変化や賠償の進展に伴い、変化しています。そのため、今回の計画は、あくまで第一次の計画であり、その後の情勢や町民意識の変化に沿って、随時見直しをしていく必要があります。

復興の基本的な考え方

- 「町」は「町民」なくして成り立ちません。そのため、復興の主体は、「町民」であるべきです。

多様な立場・考えへの相互理解

- 福島第一原子力発電所の事故による突然の避難は、双葉町民をバラバラにしてしまいました。半分近い町民は家族がそれぞれ分かれて避難しています。子供たちは学校の友達と離ればなれになって避難先の学校に通っています。このバラバラになった避難生活は、町民同士の心も分断しています。福島県内で避難した方、福島県外に避難した方、仮設住宅に住んでいる方、借り上げ住宅に住んでいる方、避難所で暮らしている方、地震・津波で被害を受けた方、双葉町へ戻りたいという思いを持つ方、双葉町へ戻らないと決めた方、放射線や除染に対する考え方の違い、町民一人一人が置かれている状況は異なることで、町民の皆さんの考えもさまざまです。双葉町の復興を考えるときは、まず、お互いの置かれている立場を理解し合い、多様な考えを互いに尊重しあうことがまず必要です。多様な立場・考えへの相互理解は、分断された町民のきずなを回復させていく上で不可欠です。

町民一人一人の選択への尊重

- 町民一人一人が置かれている状況が異なることで、町民の皆さんの将来に対する考えも様々です。双葉町へ戻ると考えている方、双葉町へ戻らないと決めた方、仮の町に住むと考えている方、仮の町に住まないと決めた方、いずれの選択もこの避難生活を強いられている中で町民の皆さんが難しい判断を強いられながらなされる選択です。そのため、町民の皆さんが、町民一人一人の選択を尊重することが大切です。

行政と町民の協働による町民の力を結集した復興

- 行政と町民が協働して、町民の力を結集して、町民が主体となった復興を目指すことが必要です。町民同士が支えあい、助け合い、そこに全国からの支援の手を自分たちの復興に結び付けて、この難局を乗り切っていかなければなりません。
- 双葉町の復興は、双葉町単独でなしえるものではなく、他の双葉郡の町村などとも連携して取り組む必要があります。

双葉町の復興の進め方

○自然災害からの復興では、住民の生活再建と町の復興が同じ場所で行われます。しかし、原子力災害によって避難を強いられた双葉町では、直ちに双葉町に戻って元の生活を取り戻すことは残念ながらありません。そのため、双葉町の復興は、喫緊の課題である町民の生活再建と、長期的な取組である町の復興を分けて考えていく必要があります。

「人（町民）の復興」と「町の復興」

- 双葉町の復興の進め方としては、まず、現在の不自由な避難生活を早急に改善した上で、当面の課題として、町民一人一人が生活再建を果たし、町民の絆（コミュニティ）を再興する「人（町民）の復興」を目指します。このことで、町民の絆が回復され、人のつながりという面で見ると「町」が復興します。
- その上で、長期的に、双葉町の土地を復旧・復興し、町を再建・再興していく、空間としての「町の復興」を目指します。
- 「人の復興」と「町の復興」の二つがそろって、初めて「双葉町の復興」となります。
- 双葉町は、町民が避難されている受入自治体と協力して町民の皆さんの生活再建を支援しつつ、町民のきずなの回復と双葉町の土地の復旧・復興という双葉町役場でなければならないことに重点を置いて取り組みます。

不自由な避難生活改善と町民一人一人の生活再建

- 双葉町への帰還については、放射線量に対する考え方の違いなどから様々な捉え方がありますが、双葉町に帰る意思のある方、双葉町へ帰らないと決めた方、どの方にも共通の課題があります。それは、現在の不自由な避難生活の改善を図ること、そして、生活の再建です。
- 町民の方からは、不自由な仮設住宅や借り上げ住宅での暮らし、先が見えない不安の声が数多く寄せられています。まず、そうした声に対して、現在の避難生活の改善を図っていく必要があります。
- その上で、双葉町への帰還には、放射線量の高さや廃炉作業の進捗を考えると、国・東京電力に対して徹底した放射性物質の除染や廃炉作業の一刻でも早い進捗を求めますが、それでも長い時間がかからざるを得ないと考えなくてははいけません。そのため、まずは、町民の皆さんが、それぞれの希望する場所で、住居を確保し、仕事や生きがいなどの生活の糧を見つけて、日常の暮らしを取り戻すこと、つまりは生活再建を成し遂げることが必要です。
- いわゆる「仮の町」は、生活再建するための場所の選択肢の一つとして、また、町民のきずな(コミュニティ)の拠点として、町民の希望に沿った整備が求められます。

町民のきずなの維持「町民が一つになる」

- 双葉町に戻れるようになるまでには長い時間がかかりますが、その間に双葉町をなくしてはなりません。町民あつての町であるならば、まず、バラバラになってしまった町民のきずなを回復させることが必要です。町民の強いきずなこそが、長い時間にわたる双葉町の復興を支える基礎となります。
- きずなを維持するためには、ふるさとが奪われている中であっても双葉町の歴史・伝統・文化は確実に継承していかななくてはなりません。

○双葉町に戻れるようになるまでに長い時間がかかることで、双葉町から転出を余儀なくされる町民もいらっしゃることでしょう。そうした選択も尊重しつつ、このような元町民の方が将来に双葉町に戻ってこられるように、転出された方も、きずなの維持・発展の対象としていくことが必要です。

ふるさとの荒廃を防ぎ、ふるさとへの思いをつなぐ

○一時帰宅のたびに、ふるさとの荒廃が進む姿を目にすることは大変悲しいことです。これ以上のふるさとの荒廃を防ぐ取組が必要です。また、一時帰宅の安全を図りつつ、立入手続きの緩和を求めるとともに、墓参への支援などを通じて、帰還が困難な中であってもふるさとへの思いをつなぐ取組が求められます。

復興のゴールは、ふるさと双葉町への帰還と双葉町の再興

- 双葉町の復興の最終的なゴールは、双葉町へ安全に安心して帰還し、町を「再興」することです。しかし、放射線量の現状や廃炉措置の状況を見れば、放射能に脅かされずに、安全に安心して帰還するというのは容易なことではありません。長い時間がかかることも否めませんが、双葉町の復興計画である以上、除染と廃炉措置の安全を徹底させながら、段階的に復興への歩みを進め、たとえ時間がかかろうとも、町を復興させることを目標として持ち続ける必要があります。一方で、放射線の現状や廃炉作業の見通しなど不明確な事項が多い中で、性急な帰還の判断が町民を分断することがないように、双葉町の帰還の在り方は、科学的知見を踏まえて、十分な議論を重ねていくことが必要です。
- 帰還までに長い時間がかかることで、双葉町から新たな街へ転出される方も多くいらっしゃることでしょう。そうした人たちからも再び双葉町へ移住を考えてもらえるように、また双葉町出身の親を持つ子ども・孫の世代が双葉町への移住を考えてもらえるように、さらに多くの人が双葉町へ移り住んでもらえるように、将来の子供たちのために魅力ある「双葉町」を再興していくことが、双葉町復興まちづくり計画の最終的な目標です。

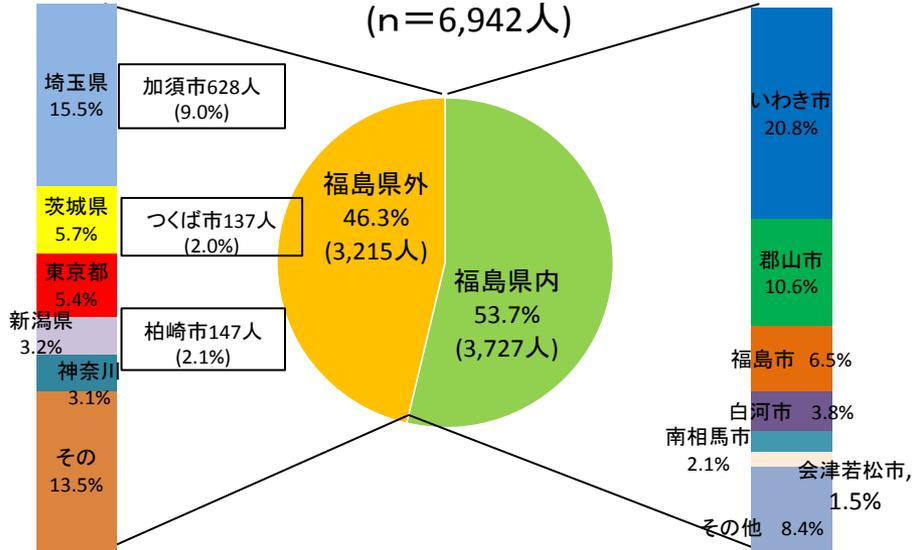
子供たちの双葉町への思いと復興への決意（「7000人の復興会議」より）

- ◆ふたば大すき ふたば どのけんよりも大だいたいすき！ だからまけないで！ ふたばをみんなでおうえんする！
- ◆ふたば町のいいところは、みんながやさしいことです なかよしの人がいっぱいいました いまは友だちがいっぱいいるのでうれしいです
- ◆ふたばのみなさんは元気ですか？ わたしは元気だよ みなさんはふたばにかえりたいですか わたしもかえりたいです けれども、きさいの友だちと先生と、はなれたくありません
- ◆わたしのふたば町の1ばんのおもいでは、海での花火です なぜかというと、とてもきれいだからです
- ◆私の家族は3つの場所に別れて生活しています なので、家族全員そろって同じ場所で住めるような環境を作ってほしいです
- ◆双葉町にいつになったら復興し、帰れるのだろうか毎日思っています 一日も早く復興させ、帰れるように考えてほしいと思っています
- ◆双葉町で暮らしたことは忘れられません 小学校のときまで過ごした町、私にとって地元双葉は人もよく楽しい町だったので、早くそんな地元をとり戻せたらいいなと思います

■町民の避難状況

【出典：双葉町民の避難状況（H25.3.1現在）】

(n=6,942人)



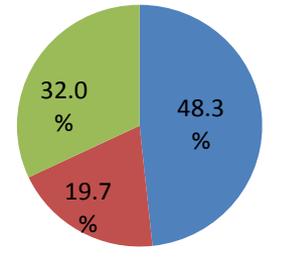
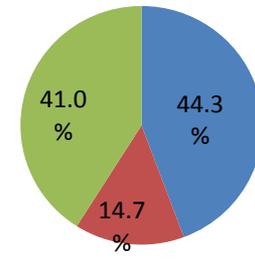
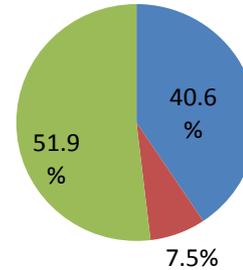
■子供たちの避難状況

【出典：双葉町教育委員会（H25.3.10現在）】

幼稚園(3歳~5歳)
(n=160人)

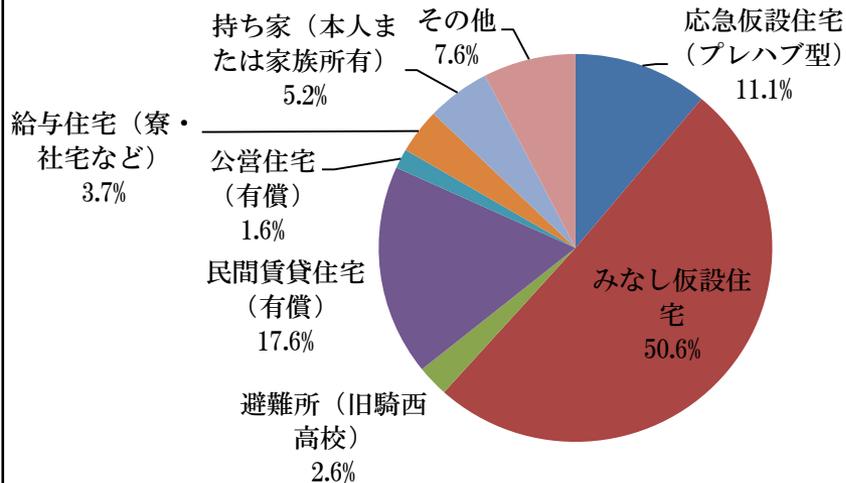
小学生 (n=334人)

中学生 (n=178人)



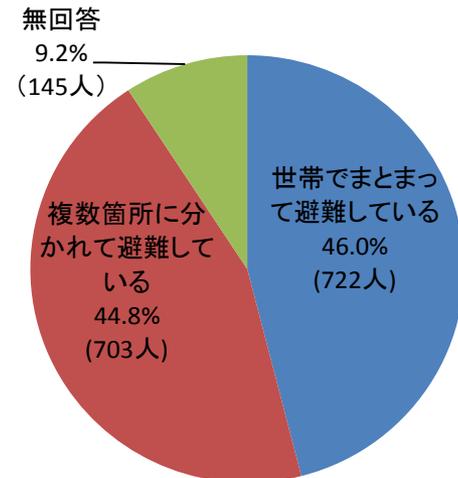
- 福島県内 (65人)
- 福島県内 (148人)
- 福島県内 (86人)
- 騎西中央幼稚園 (12人)
- 騎西小学校 (49人)
- 騎西中学校 (35人)
- 福島県外 (83人)
- 福島県外 (137人)
- 福島県外 (57人)

避難先の住まいの状況 (n=3,498人)



【出典：双葉町住民意向調査（H25.2.5公表）】

世帯分離の状況 (n=1,570人)



【出典：双葉町住民意向調査（H25.2.5公表）】

町民の多様な考え

数字：双葉町住民意向調査(平成25年2月5日公表)より
(中高生を含む全体の割合)
意見：「7000人の復興会議」における意見より

■双葉町へ戻りたい

→ 38.7%

- ・自宅の補修・再建、インフラの復旧が
終われば、すぐに戻りたい …… 10.3%
- ・条件が整えば戻りたい …… 28.4%

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆帰っていいなら今でも帰りたい
- ◆一日でも早く双葉町に戻って次世代につなげたい
- ◆もう一度双葉町でのんびりと暮らしたい
- ◆みんな帰りたい。復興とは自分の場所に帰ること。仮の町ではない。

■双葉町へ戻らない

→ 30.4%

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆「ふるさと双葉町」と言っても汚染された所に戻ろう
としているのは間違っていると思う
- ◆今の双葉町には戻れない
- ◆今の双葉町は人が住めるような環境にはない。危
険な放射能があふれている。
- ◆自分たちも双葉町に家を新築し、1ヵ月しか経って
いないので、夢や希望などを残してきているが、今
回の件でつらい思いもしている。小さな子どもも居
るので申し訳ないが双葉町に戻る気はない。早く賠
償が進み、次の生活に移りたい。

■双葉町に戻るか戻らないか判断 できない

→ 26.9%

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆双葉町に帰れるのか帰れないのか知りたい
- ◆帰れないならばはっきり言ってほしい
- ◆いつ帰れるのか時期が知りたい
- ◆帰りたくても現実問題として、線量が高くて
帰れない

■「仮の町」へ移り住みたい

→ 6.7%

■現時点では判断できないが、移り住むことを検討したい

→ 45.5%

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆一日も早く仮の町をつくってほしい
- ◆双葉町の人と一緒に集まって住みたい
- ◆行政区ごとに集まって住みたい
- ◆仮の町、復興公営住宅、住居はどのようになるのか知りたい

■「仮の町」へ移り住みたいとは思わない

→ 42.8%

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆もう既に他の地で安定を見つけられた人は、もう戻りたくない。
- ◆仮の町は希望しない
- ◆仮の町に、教育、医療機関は必要だと思うが、子どもたちは戻らないだろう
- ◆双葉町という小さな枠組みにこだわって、生活再建を考えるつもりはない。

■放射線の影響に対する強い不安

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆放射能の影響が心配で帰還する気にならない
- ◆事故前の放射能レベルにならないと子どもたちを連れて
帰れない
- ◆福島県には放射線が気になり、帰りたいけど行けない

■放射線に対する困惑

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆放射能は見えないものなので、危機が理解
しにくい。情報隠いなどで国を信用できない
- ◆放射能に対して一律の対応は無駄を生じて
いるのでは。若者と高齢者で違いがあって当
然と思う。

■除染に対する困惑・必要性

「7000人の復興会議」の町民の意見

- ◆除染の資金は復興に向けての資金にまわすべきだ。
現時点では意味があるとは思わない。
- ◆除染は長い年月をかけて徹底的に行い、5～10年の
単位で除染効果をチェックする。避難以前の生活に
戻れるまで粘り強く取り組む。

基本方針	対応する施策(案)	
不自由な避難生活の改善	<ul style="list-style-type: none"> ①迅速、確実、十分な賠償 ②住居(仮設住宅、借上げ住宅)の改善 ③避難生活における健康被害の防止 	<ul style="list-style-type: none"> ④町からの情報提供 ⑤町民のきずなの回復への取組 ⑥各種支援措置(高速道路の無料化、各種減免措置等)の継続
町民一人一人の生活再建の実現	<ul style="list-style-type: none"> ①町民の生活再建に必要な支援の在り方 <ul style="list-style-type: none"> ・住居の確保 <ul style="list-style-type: none"> →自宅再建への支援措置の拡充や公営住宅の入居のあっせん等 ・事業再開支援・雇用の確保 ・医療福祉体制の確保 <ul style="list-style-type: none"> →居住先で医療・福祉サービスを受けられる仕組みの構築 →放射線による健康被害への対策や長期的な健康管理の仕組みの構築 →子ども・被災者支援法の実効ある運用 ・教育環境の確保 <ul style="list-style-type: none"> →仮の町と切り離れた早期の学校再開の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ②「仮の町」(双葉町外拠点)の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・「仮の町」の意義 <ul style="list-style-type: none"> →生活の拠点としてだけでなく、コミュニティの拠点としての「仮の町」 ・「仮の町」整備の基本的な考え方 <ul style="list-style-type: none"> →高齢者の希望が多いことを踏まえた高齢者にやさしい復興公営住宅を中心とした「仮の町」の整備 ・「仮の町」の候補地の考え方 ・「仮の町」における施設の整備方針
町民のきずなの維持	<ul style="list-style-type: none"> ①町民の交流機会の確保 ②町からの情報提供 ③双葉町の歴史・伝統・文化の記録と継承 	<ul style="list-style-type: none"> ④避難先住民との交流の促進 ⑤事故の教訓の伝承 ⑥町民のきずなを維持する拠点としての「仮の町」の整備
ふるさとへの荒廃を防ぎふるさとへの思いをつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ①一時帰宅の改善 ②ふるさとへの荒廃の防止 <ul style="list-style-type: none"> →道路等の応急復旧、防犯・防火対策、危険建物の除却等 	<ul style="list-style-type: none"> ③町民のきずなの維持
ふるさとへの帰還と双葉町の再興	<ul style="list-style-type: none"> ①帰還条件の達成に向けた取組 ②津波被災地域の復旧・復興の考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ③町の復興・再興へ向けた考え方
町民主体の復興	<ul style="list-style-type: none"> ①復興の取組への町民の参画 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの継続的な実施 ・説明会・ワークショップの定期的開催 ・若い世代の復興への参画の仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> ②町民による復興の取組の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・町民有志による勉強会等の開催支援 ・町民有志によるNPO等の設立支援